＜第 4436 回＞
目的地：新龍アルプス(龍野)
担当者：鹿田裕子
実施日：2023 年 11 月 25 日(土)
形　式：日帰りハイキング
費　用：¥3,960
参加者：5 名

天　気：晴れ
行　程：
播磨新宮駅（9：45）⇒馬立山里公園（登山口）（10：30）→亀の池（11：30）
→亀山（12：00 着　昼食 30 分）（出発 12：30）→城山城（12：27）→的場山（13：50）→鶏籠山（14：35）→龍野城公園・城下町散策（14：50 着　散策 30 分）→本竜野駅（16：30）（解散）

感　想：
　寒波到来と聞いて、着ぶくれて播磨新宮駅に降り立ちましたが、風もなく、穏やかな日差しの登山日和となりました。新龍アルプスは播磨の新宮と龍野を結ぶ縦走ルートで、頭文字をとって新龍アルプスと名付けられました。駅を出て川沿いに南下し、馬立山登山口につきました。ここは古墳もたくさんあり、古代から人が住んでいたことがわかります。ここから赤松氏の城のあった亀山へ向かう道を登るのですが、ロープを使って登るほどの急登で、こんなところを侍たちは登ったのかと思うほどでした。
　亀山の分岐尾根まで出ると、道は緩やかとなり、少し寄り道して亀の池（きのいけ）へ向かいました。近くに亀の形をした大岩があるのでついた名かと思いますが、予想以上に大きな池で、山城が置かれたこともうなずけました。
　亀の池から一路、亀山を目指しました。堀の跡や土塁の跡など、一帯が城郭だったようですが、看板がないとよくわかりませんでした。亀山の山頂にて昼食をとり、次は的場山へ向かいます。道はそれほど険しくはないのですが、小刻みなアップダウンが続くのでだんだんと足に来ます。少し時間も押してきたので、城山城の見学はカットして、的場山へ直行しました。途中から視界が開けてきて、遠く海まで見渡せる景色となり、左手に揖保川、右手に紅葉で染まった山と気分のよい縦走路となりました。
　2 つほど名もないピークを越えたあと、1 時間半かかってたどり着いた的場山は電波塔などが立っていて少し味気ない山でした。そこから龍野城の裏山である鶏籠山に向かったのですが、なんとも急な激下りで、もろい花崗岩と落ち葉でずるずるの道で歩きづらかったです。30 分ほどかけて龍野公園との分岐に出て、そこからは 15 分ほどで鶏籠山に登りました。ここも山城跡で、石畳や石垣などが一部残っていました。このまま龍野城にも降りるルートはあるのですが、そこも激下りなうえ、紅葉がないルートなので分岐まで戻って紅葉谷を下りました。ここは青葉まじりながら美しく色づいた紅葉が見られ、公園のすぐそばの庭園の聚遠亭（しゅうえんてい）の紅葉が盛りでそれはみごとでした。
　そのまま龍野城などを散策し、名産のしょうゆなどのお土産を買ったり、しょうゆソフトを食べたりして、本竜野の駅まで 30 分ほどかけて歩いて解散となりました。
　思った以上にハードな箇所もあって時間がかかり、山城の見学がちゃんとできずに計画不足な反省点もありました。遠くまでご参加頂いた皆様、ありがとうございました。